

<2017年11月>

あなたは生き残れるか

国保連合会嘱託 ひがしだ 東田 ふみお 文男



善きにつけあしきにつけ、ついこの間まで、入社した会社で最後まで勤め上げるのがサラリーマンの王道だった。両親や世間から「石の上にも三年」とさとされ、終身雇用を疑わなかった。転職などはもってのほかだった▼だが、今や世界を舞台にした激烈な競争社会である。大企業といえども経営者が判断を誤れば社員ともども「転落」である。企業の平均寿命は20~30年という。創業100年を超える企業は日本全体のわずか2%というデータがあるぐらいだ▼一方で、人間の平均寿命は100歳時代を視野にとらえた。そうなれば定年も延長され、サラリーマンは望むと望まざるにかかわらず、人生で1~2回は転職する可能性が高



くなってきた▼少子高齢化で人手不足だといわれる。転職への追い風と思いきや、話題のAI（人工知能）が強力なライバルとして登場してきた。ここ10~20年の間に、AIの進歩で現在の仕事の半分が奪われる（なくなる）といわれる▼AI時代を生き抜くためにはどうすればいいのか。どんなスキルを手に入れればいいのか。サラリーマンよりもいち早くこの難問に直面しているのが、子どもたちだ。英語がしゃべれ、プログラミングができ、ディベート力を身につけなければ、生き残れないという▼ただでさえ塾通いに大忙しの子どもたちの、わずか数年先を想像するだけでもめまいがする。これから何が起るのか。何が正しいのか。生き抜くためにはどうすればいいのか。サラリーマンこそ、この問いに答えを見つけていかなくてはならない転職時代に突入した。